日本経済新聞
3月21日
日曜日
発行所　日本経済新聞社
東京本社 ☎(03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 ☎(06)6943-7111
名古屋支社 ☎(052)243-3311
西部支社 ☎(092)473-3300
札幌支社 ☎(011)281-3211
NIKKEI NET アドレス
http://www.nikkei.co.jp/
購読のお申し込み
☎0120-21-4946
http://www.nikkei4946.com

きょうの紙面

個人、高金利通貨投資を再開　3 経
米金融制度改革、議論大詰め　5 国
ベスト電器、再建巡り内紛　7 企
政権公約足かせ　迷走の半年　6 特

ニッポンの農力

第5部　宝は眠っている 1

放棄地　価値は5000億円

土地の発想変える

愛媛県西条市で3月、青汁の原料となるケールが収穫期を迎えた。農産物を加工販売する遠赤青汁（同県東温市）が栽培する畑だ。

特産の「愛宕柿」やミカン栽培が盛んなところだが、背丈ほどの雑草に覆われ、果樹にツタが絡まった耕作放棄地も目立つ。同社はそんな土地を借りて再生し、ケールやニンニクを有機で作る。

有機栽培に最適

「放棄地は一番きれいな土地だ」。社長の高岡照海（67）は言う。長年使われていなかったことが幸いし、農薬や除草剤、化学肥料が残留していない。有機栽培には最適というわけだ。

ケールは自社工場で青汁粉末やタブレットに加工し、百貨店や通信販売ルートで売る。昨年からはシンガポールへの輸出も始めた。同社の手でよみがえった〝元〟放棄地は約12ヘクタール。今年は2ヘクタールを増やす予定だ。

日本の耕作放棄地は埼玉県の面積に匹敵する約38万ヘクタール（2005年）に上る。10年間で6割も拡大した。農業衰退の象徴でもある。

これを再生すれば…。08年時点の国内の農地は463万ヘクタール。放棄地はさらに増えているとみられるが、38万ヘクタールとしても農地の約8％を占める。農業産出額（畜産物を除く）は年5兆8千億円なので、生産性を同じとするとざっと5000億円の潜在力が放棄地に眠っている計算だ。

07年設立のベンチャー企業、マイファーム社長の西辻一真（27）は電車の窓から放棄地を見つけると、自然と笑みがこぼれる。西辻にとっては「宝の山」だからだ。

同社は農家の放棄地を農園に再生し、野菜作りに興味がある個人に農家が土地を貸す際の仲介や農園管理を手がける。農園は関西や首都圏に39カ所あり、年内に100カ所に増やす計画だ。

抱える利用者は約100組。使用料を農家と折半する仕組みで、10年12月期の売上高は2億2000万円。決算期変更で6カ月決算の09年12月期（3500万円）と比べても大幅な増収になる見通しだ。西辻は「農業だけでは生活できないから放棄地が生まれた。新しい形にリメークする以外に活用方法はない」と力説する。

遠赤青汁は放棄地を借りてケールやニンニクを栽培する（愛媛県西条市）

「放棄地を復活させる千載一遇のチャンスだ」。岩手県軽米町の町長、山本賢一（55）は声を弾ませる。町内約9000ヘクタールの水田のうち、約100ヘクタールを占める放棄地は雑草や竹が生い茂ったまま。しかも年々増えていた。

そこに昨年、転機が訪れた。ニチレイグループが隣の洋野町につくった養鶏場でコメを混ぜたエサを与えることになり、軽米町の33ヘクタールの水田で飼料米作りを始めたのだ。このうち10ヘクタールは放棄地を復活させた水田だ。25ヘクタール分、約120トンをニチレイに供給した。

今年は飼料米の栽培面積を約100ヘクタールに広げ、再生する放棄地もさらに増やす。「害虫が発生するなど『負』の存在だった土地が価値を生み出す資源になった」と山本。コメを与えると鶏肉のコクも増すこともわかった。「負の存在」がうまい鶏肉の生産にも一役買っているというわけだ。

耕作放棄地は法律上は「農地」だ。所有者が農業を廃業すれば農地でなくなり、固定資産税が跳ね上がる。転売期待で保有し続けても、中山間地などの使いにくい土地が多く、高く買ってくれる人も現れない。そうやって広がってきた。

「株主」を集める

放棄地の購入資金を主に都会の人たちに頼るのは農業生産法人、みわ・ダッシュ村（京都府福知山市）。昨年10月、「1口農場主」という株主制度を設けた。1株100万円で募った資金でこうした土地を買い取り、そこで作ったコメや野菜を配当として毎月送る。都内在住者も含め、株主は現在35人いる。

以前から府内の計7ヘクタールの放棄地を再生し、無農薬米などを育ててきた。09年度産のコメをインターネットで販売したところ、市場価格の3倍で売れた。代表の清水三雄（68）は「5年以内の黒字化を目指す」と、他人が見捨てた土地での農業に手応えを感じている。

◇

農業の機能は食料を生産するだけではない。さまざまな有形、無形の価値を生み出している。そこにニッポンの農業の新たな可能性を見いだし、潜在力を掘り起こす動きを追う。（敬称略）

＝関連記事3面に